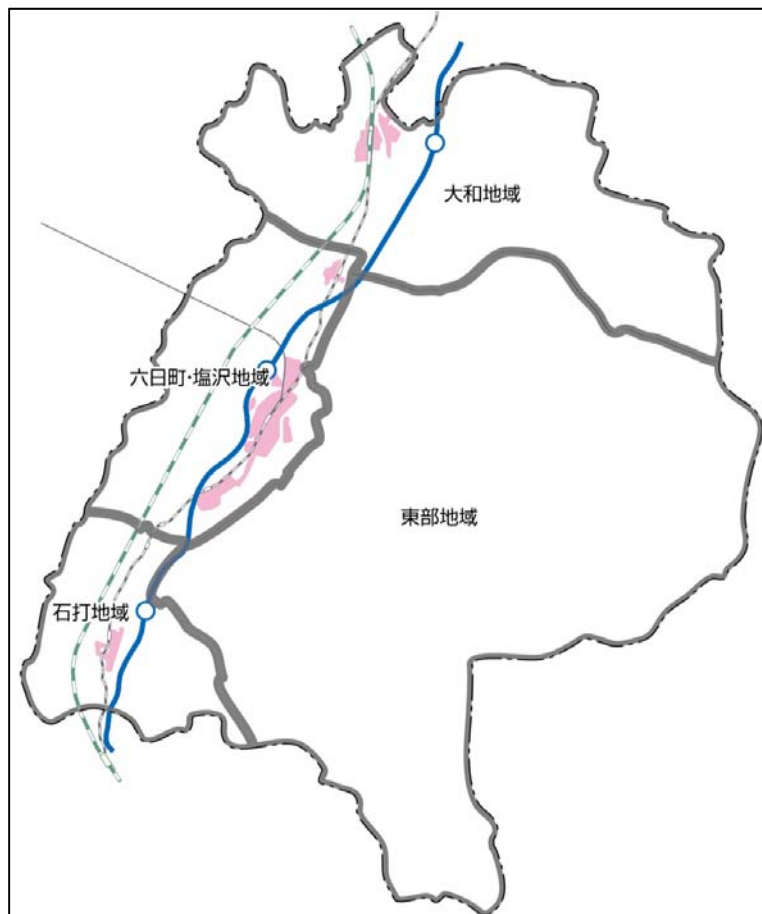


第3章 地域別構想

■地域（ゾーン）区分の設定

本計画では、土地利用や地域特性をもとに、市域を大和、六日町・塩沢、石打、東部の4地域に区分しました。それぞれの地域設定の考え方を以下に示します。



■地域区分概要

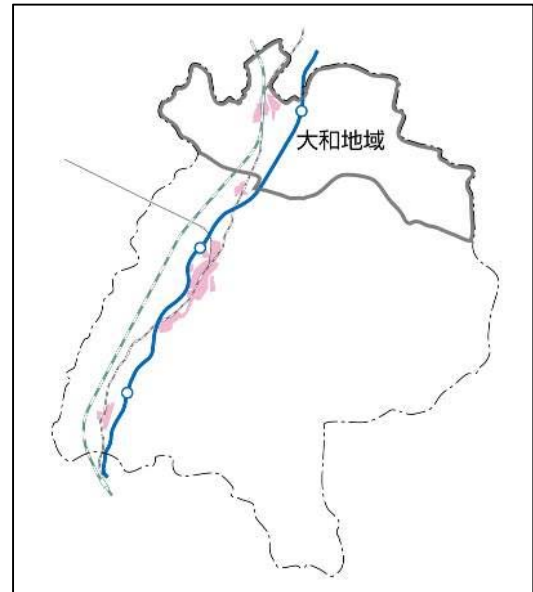
地域名	地域特性・方向性等	面積
大和 (国際・メディカル)	魚沼基幹病院をはじめ、CCRC構想、ITパーク構想などのプロジェクトが進行する地域として、既存の大学などとの連携を図りながら交流が活発な地域を目指します。	約 130km ²
六日町・塩沢 (中心市街地・R17沿線)	市の中心である六日町市街地、塩沢市街地を含む都市拠点として、既存の都市機能の強化と賑わいある商業地の形成を目指します。また、既存の観光資源の活用により、交流人口の拡大を図ります。	約 80 km ²
石打 (観光・レクリエーション)	スキー場が複数分布するリゾート地域として、来訪者のために観光施設機能強化や観光施設間の連携充実を目指します。また、地域居住者の生活利便性の向上も図ります。	約 50 km ²
東部 (農業・自然環境)	魚野川右岸の農業集落地と山林など、市の原風景を多く残す地域として、豊かな自然の保全・活用を目指します。また、地域の人口減の抑制のため、基幹となる集落における日常サービス機能の維持を図ります。	約 330km ²

1. 大和地域 <国際・メディカルゾーン>

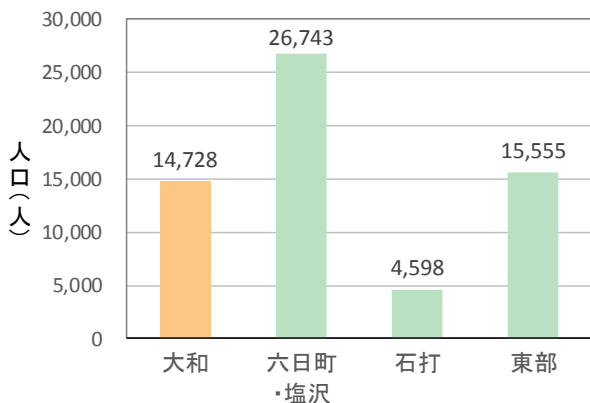
1-1 現状とアンケート結果

(1) 地域概況

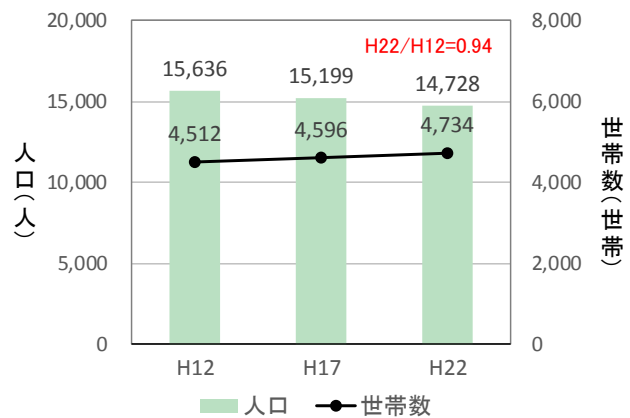
- 市の北部に位置する旧大和町の区域。
- 平成22年現在、人口約14,700人、世帯数約4,700世帯で、人口は減少傾向、世帯数は増加傾向。
- 市内唯一の新幹線停車駅JR浦佐駅と関越道大和スマートインターチェンジ(以下、「SIC」という)が交通拠点。国道17号浦佐バイパスの整備が進む。
- 浦佐地区周辺に用途地域が指定され、都市的土地利用が展開されるほか、八色の森公園や魚沼圏域の基幹病院、大学院大学や専門学校・高等学校も立地する。市が進めるCCRC構想の高齢者居住地やITパークの整備が予定されている。



■人口・世帯数



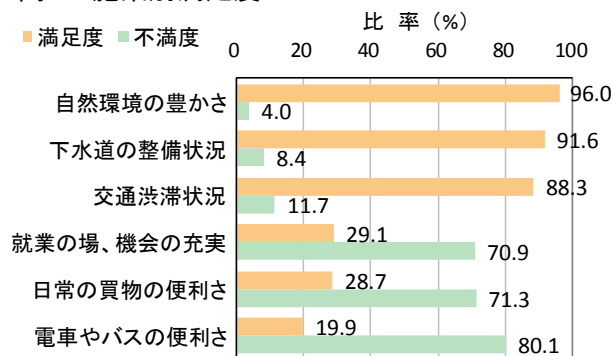
H22 地域別人口



大和地域 人口・世帯数の推移

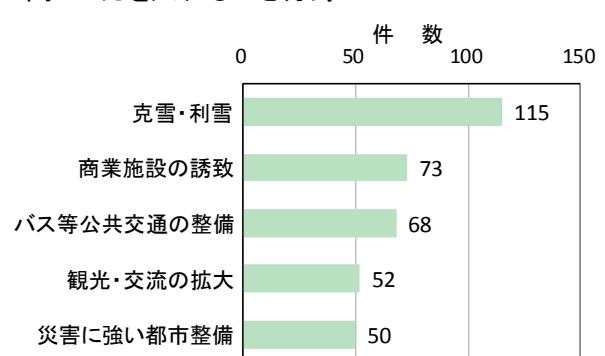
(2) アンケート結果(抜粋)

問10 施策別満足度



※対象は満足、不満足それぞれ3項目のみ

問12 力を入れるべき分野



※上位5項目のみ

1-2 地域の整備方針

(1) 土地利用の方針

【市街地】

- JR浦佐駅西側の商業地は、近隣住民の日用品の買物のほか、毘沙門堂など歴史ある資源と連携した景観整備などにより、賑わいのある商業地の形成を図ります。
- JR浦佐駅東側の商業地は、新幹線停車駅の玄関口として、広域からの来訪者の利便に配慮した土地利用の形成を図ります。
- 魚野川左岸のJR浦佐駅周辺の住宅地は、鉄道駅が徒歩圏内にあるなど交通利便性の高い地区であることから、日用品の買物等の商業機能の充実などにより魅力の向上を図り、居住者の増加を目指します。
- 魚野川右岸の住宅地は、魚沼基幹病院をはじめ複数の医療機関が立地するとともに、小中学校や広域公園も近隣する生活利便の充実した地区として維持向上を図ります。
- 魚沼基幹病院周辺は、魚沼圏域の広域医療拠点としてメディカルタウン構想に基づき、関連する土地利用の整備・充実を目指します。
- 市役所大和庁舎のITパークは、主に海外のIT関連企業の集積を促進し、新たな産業の創出による地域の活性化を図ります。



毘沙門通り



ウッドタウン八色

【集落地・自然地】

- 国際大学や北里大学保健衛生専門学院が立地する地区周辺は、豊かな自然に恵まれた高等教育ゾーンとして機能の維持充実を図ります。
- また、市外からアクティブシニアを受け入れるプラチナタウンを整備し、教育機関や魚沼基幹病院等との連携のもと、移住者の就業や社会貢献の場など、地域との関わり場の場としての環境整備を図ります。
- 東地区、大崎地区、藪神地区の中心部は、周辺地域の集落拠点として日用品の買物、保育園・小学校、医療施設、郵便局など、住民の日常生活サービスの機能維持を図ります。
- 三用工業団地、水尾新田工業団地、藪神工業団地などの工業地は、大和SICへの利便性が高く、自然環境にも恵まれた工業団地として、地域住民の就業の場の確保となるよう維持充実を図ります。
- 本地域の中央部に広がる農地は、魚野川沿岸や水無川扇状地に広がり越後三山の麓に沿うように分布しており、南魚沼産コシヒカリや八色スイカを生産する優良農地です。田園及び集落地は、食料生産、防災、景観など様々な機能を担っているため維持保全を図ります。
- 地域の大部分を占める山林地域は、国土保全、水源涵養、生物多様性などの多面的な機能も有することから、重要な環境資源として保全するとともに、交流資源としても活用を図ります。



大和地域の基幹集落

【レクリエーション施設等】

- スキー場や水無溪谷、大崎ダム公園などの観光資源を活用し、年間を通して観光客を受け入れることのできる魅力の多い地域の形成を図ります。
- 八色の森公園は、市民憩いの場のみならず都市景観、観光資源としての拠点形成を図ります。



水無溪谷

（２）交通体系の方針

【交通網の整備】

- 魚沼基幹病院の利便性の強化のため、大和SICへのアクセス強化を図ります。また、地域内における広域交通の利便性を高めるため、国際大学周辺や浦佐市街地から大和SICへのアクセス向上を図ります。
- 浦佐市街地を走行する通過交通の排除や魚沼基幹病院へのアクセス向上を図るため、国道17号浦佐バイパスの全線開通を働きかけます。
- 市街地内での快適な歩行空間の整備を進めます。特に、魚沼基幹病院などの公共施設周辺では、歩道のバリアフリー化、ネットワーク化を図ります。
- その他の身近な生活道路は、歩行者や交通量の多い道路、また学校周辺や危険な箇所などを優先して歩道の整備、交通安全施設の設置を図ります。

【公共交通の整備】

- 都市拠点と集落拠点等を結ぶ市民バスは、その運行を維持するとともに、鉄道や路線バスとの乗りかえ機能の充実などにより利用者の利便性の向上を目指します。
- JR浦佐駅周辺は公共交通の拠点として、新幹線利用者等が利用するパークアンドライド駐車場や在来線と路線バス、市民バスとの連携の強化を図ります。

（３）その他の方針

【環境・景観】

- 水無川扇状地や浦佐市街地を取り囲む農地は、保水・田園景観など様々な機能を担っているため、この自然環境を維持保全するとともに、水と緑を活用した生活環境づくりを目指します。
- 地域の大部分を占める山林地域は、国土保全、水源涵養、生態系の保護などの多面的な機能も有することから、重要な環境資源として保全するとともに、交流資源としても活用を図ります。
- 市街地や集落地付近を流れる魚野川や水無川などの河川は、地域の自然景観を形成する水辺空間として保全します。
- 毘沙門堂の裸押合大祭や八海山尊神社での火渡り大祭などの地域に根付いた文化、風習の維持継続と活力あるまちづくりへの活用を図ります。



魚野川



裸押合大祭の様子

【防災】

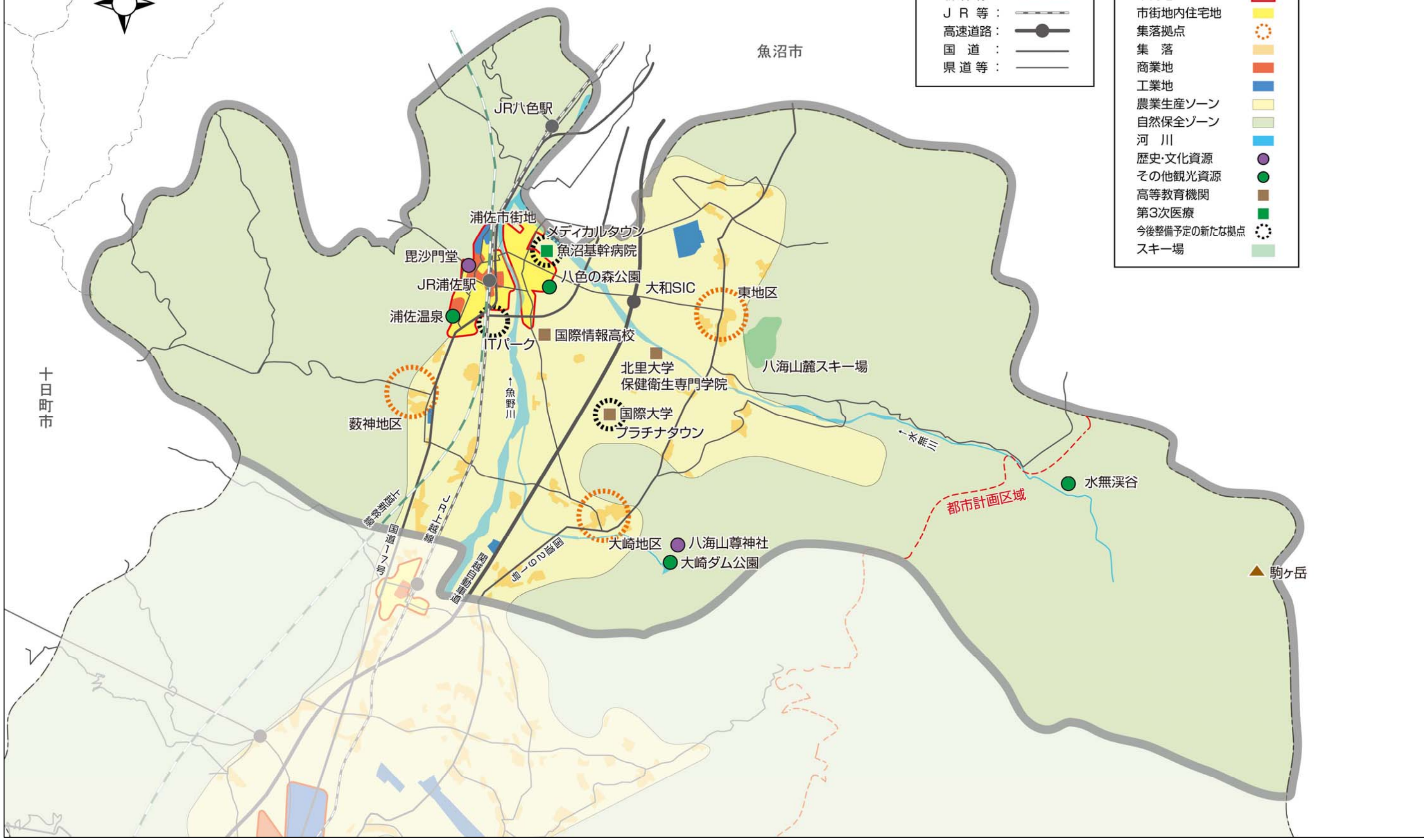
- 浦佐市街地の建物密集地においては、建物の耐火・耐震性の向上や狭隘道路の改善、オープンスペースの活用などにより、地震や火災が発生した際の防災性の向上を図ります。
- 土砂災害のおそれのある浦佐市街地の西側や山間地の集落においては、砂防施設の整備を関係機関に働きかけるとともに、新たな開発や宅地化については、安全性の確保を図ります。

地域別構想図（大和地域）

0 1000 2000 3000 4000 5000m



交通網		凡例	
新幹線		市街地	
J R 等		市街地内住宅地	
高速道路		集落拠点	
国道		集落	
県道等		商業地	
		工業地	
		農業生産ゾーン	
		自然保全ゾーン	
		河川	
		歴史・文化資源	
		その他観光資源	
		高等教育機関	
		第3次医療	
		今後整備予定の新たな拠点	
		スキー場	

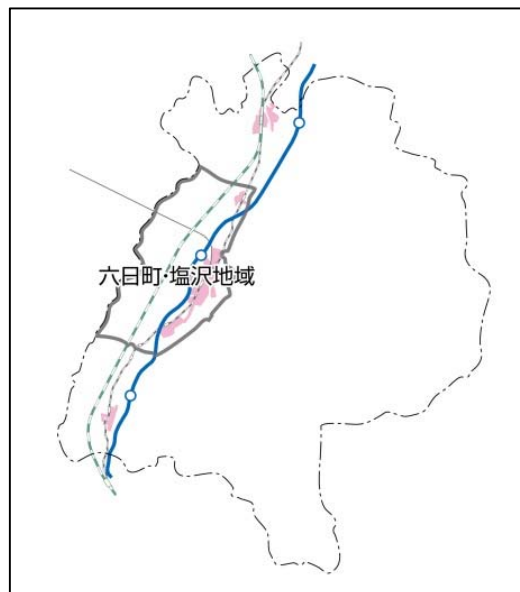


2. 六日町・塩沢地域 <中心市街地・R17 沿線ゾーン>

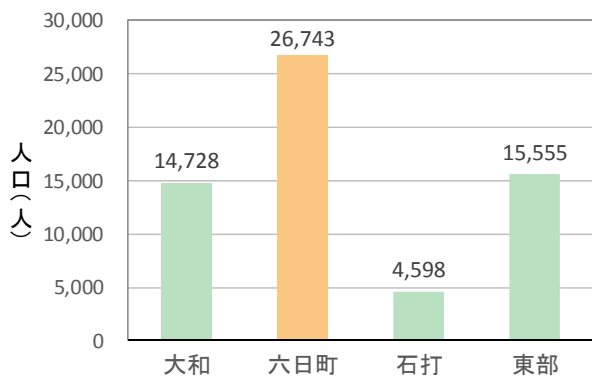
2-1 現状とアンケート結果

(1) 地域概況

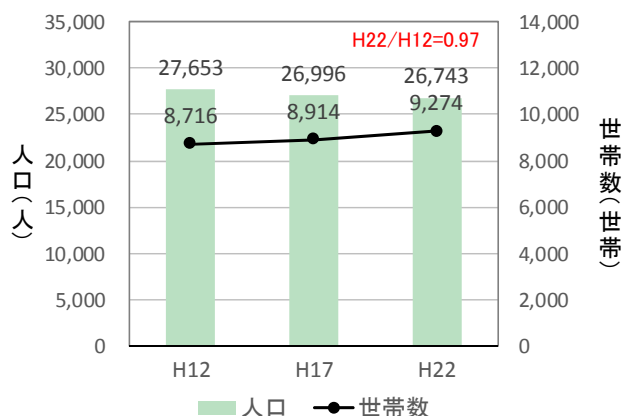
- 市の中央西部に位置する旧六日町・塩沢町の一部区域。
- 平成22年現在、人口約26,700人、世帯数約9,300世帯で、人口は減少傾向、世帯数は増加傾向。
- 六日町駅と関越道六日町ICが広域的な交通拠点。国道17号六日町バイパスや上沼道の整備が進む。
- 六日町地区、塩沢地区、五日町地区の3か所に用途地域が指定され、特に六日町市街地は本市の中心的市街地に位置づけられる。
- スキー場や温泉地のほか、坂戸城跡や牧之通りなどの観光資源も分布する。



■人口・世帯数



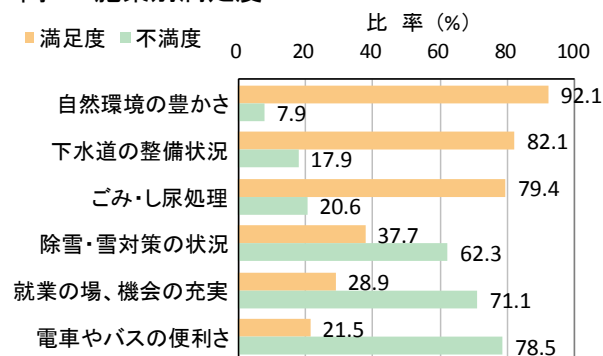
H22 地域別人口



六日町・塩沢地域 人口・世帯数の推移

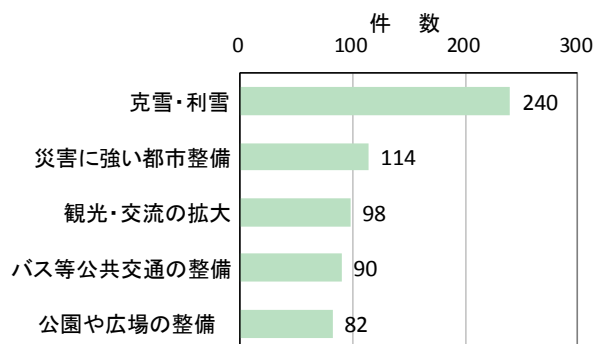
(2) アンケート結果(抜粋)

問10 施策別満足度



※対象は満足、不満足それぞれ3項目のみ

問12 力を入れるべき分野



※上位5項目のみ

2-2 地域の整備方針

(1) 土地利用の方針

【市街地】

- 六日町駅周辺の商業地は、買物、飲食、金融、文化、教育、行政などが集積する本市の中心都市拠点として、活力と賑わいのある商業地の形成を図ります。
- 六日町駅周辺の住宅地は、歩いて日常生活を送ることができる都市居住空間として、生活利便性の向上とともに未利用地の有効活用と居住者の確保を目指します。
- JR塩沢駅周辺は、牧之通りなどの資源を活用しながら、来訪者が歩いて回遊できる商業地の形成を図ります。また、国道17号沿線の店舗との連携により、近隣住民の生活利便性の向上を図ります。
- JR五日町駅周辺は、地域住民の快適な居住環境の整備とともに、主として近隣住民が日常的に利用する商店等の集積を図ります。
- 国道17号沿線は、道路利用者のための商業(店舗・飲食)やガソリンスタンドなど、広域幹線道路沿線にふさわしい土地利用の利便性の向上を図ります。
- 六日町IC周辺は、関越自動車道と上沼道及び国道17号六日町バイパスが結節する広域拠点となることから、近隣都市からの買物需要も担う商業地としての維持充実を図ります。
- 美佐島・川窪地区の工業・商業地は、国道17号六日町バイパスの整備に合わせて、流通業務に特化した機能の誘導を図ります。
- その他の市街地内の工業地については、近隣の住宅地にも配慮した環境悪化のない職住近接型の工業機能の誘導を図ります。



六日町市街地

【集落地・自然地】

- 市街地周辺の集落地は、都市拠点や地域拠点とのアクセス向上により、住民の日常生活利便性の維持向上を図ります。
- 市街地を取り囲む田園地は、品質の高い南魚沼産コシヒカリを生産する優良農地であるほか、保水などの防災機能、魚沼丘陵を背景とした田園景観など様々な機能を有しているため、今後とも維持保全を図ります。



牧之通り

【レクリエーション施設等】

- 点在するスキー場や坂戸城跡、魚沼スカイライン、牧之通りなどの観光資源と温泉資源等の連携により、通年型観光地としての魅力向上を図ります。
- 六日町市街地内に分布する六日町温泉については、市街地中心部への散策や国指定文化財である坂戸城跡へのトレッキングなど、宿泊客が気軽に地域を楽しめるような周辺環境の整備を図ります。

(2) 交通体系の方針

【交通網の整備】

- 広域交通の軸となる国道17号六日町バイパスの早期完成を関係機関に働きかけ、市街地内の交通の円滑化を目指します。
- 本地域と十日町・上越市方面との交流を促進するため、上沼道の早期完成を関係機関に働きかけます。
- 歩行者の回遊性を高めるとともに、快適な歩行空間の整備を進めます。特に、まちなかの多くの人が集まる公共施設周辺では歩道のバリアフリー化、ネットワーク化を図ります。
- その他の身近な生活道路は、歩行者や交通量の多い道路、また学校周辺や危険な箇所などを優先して歩道の整備、交通安全施設の設置を図ります。



市街地内の歩道整備の様子

【公共交通の整備】

- 都市拠点・地域拠点と集落地を結ぶ市民バスは、高齢者等の日常生活を支える交通手段として、その運行の維持を図ります。また、鉄道や路線バスとの乗りかえ機能の充実などにより利用者の利便性の向上を目指します。
- 六日町駅周辺は、公共交通の拠点として、在来線と路線バス、市民バスとの連携の強化を図ります。
- JR塩沢駅、JR五日町駅周辺は、住民の生活を支える身近な交通拠点として、休憩、駐車機能等の充実や来訪者のための案内機能の整備を図ります。



六日町駅前バスターミナル

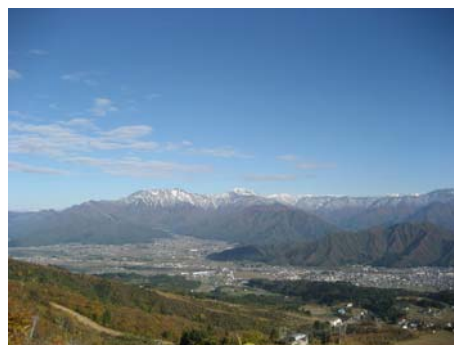
(3) その他の方針

【環境・景観】

- 市街地を取り囲む田園地帯及び魚沼丘陵の山林は、CO₂の吸収や防災、景観形成などの多面的な機能を担っているため、これら自然環境を維持保全します。
- 市街地近郊の坂戸山の景観は、地域を代表する自然景観であることから、これら景観資源の保全活用を図ります。
- 市街地や集落地付近を流れる魚野川などの河川は、地域の都市景観を形成する水辺空間として保全します。
- 魚沼丘陵の稜線を走行する魚沼スカイラインは地域内の市街地や田園集落、またこれらの背景にある越後三山などの本市全体を見渡せる観光資源として活用を図ります。
- 地域に根付いた文化、風習の維持継続と活力あるまちづくりへの活用を図ります。



坂戸山



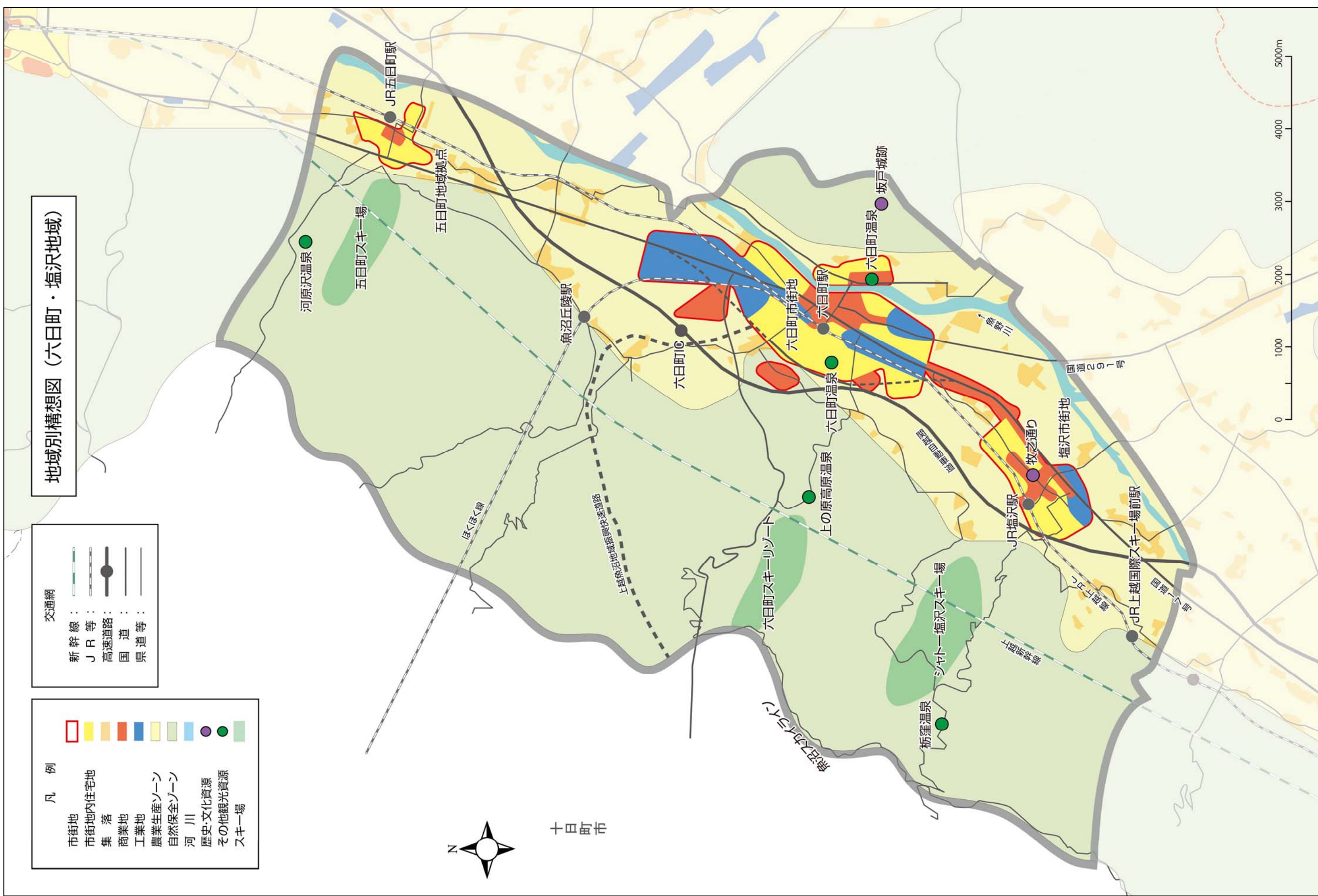
魚沼スカイラインからの眺望

【防災】

- 木造建物が密集する六日町市街地においては、建物の耐火・耐震性の向上や狭隘道路の改善、オープンスペースの活用などにより、地震や火災が発生した際の防災性の向上を図ります。
- 六日町市街地では、大雨による浸水被害が発生していることから、河川の早期完成を関係機関に働きかけ、水害に対する安全性の向上を目指します。
- 土砂災害のおそれのある魚沼丘陵や坂戸山周辺の集落においては、砂防施設の整備を関係機関に働きかけるとともに、新たな開発や宅地化については、安全性の確保を図ります。



市街地内の狭隘道路



地域別構想図 (六日町・塩沢地域)

- 交通網
- 新幹線 : (solid black line with cross-ticks)
 - JR等 : (solid black line)
 - 高速道路 : (dashed grey line)
 - 国道 : (dotted grey line)
 - 県道等 : (solid grey line)

- 凡例
- 市街地 : (white box with red border)
 - 市街地内住宅地 : (yellow box)
 - 集落地 : (orange box)
 - 商業地 : (red box)
 - 工業地 : (dark red box)
 - 農業生産ゾーン : (green box)
 - 自然保全ゾーン : (light green box)
 - 河川 : (blue wavy line)
 - 歴史・文化資源 : (purple dot)
 - その他観光資源 : (green dot)
 - スキー場 : (light green box)



十日町市

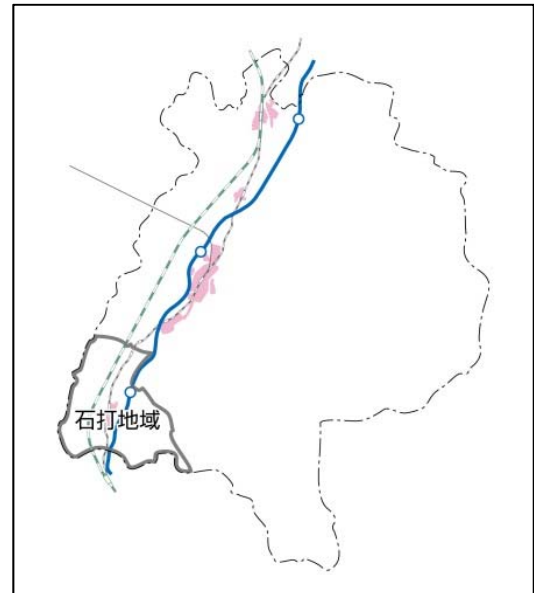
0 1000 2000 3000 4000 5000m

3. 石打地域 <観光・レクリエーションゾーン>

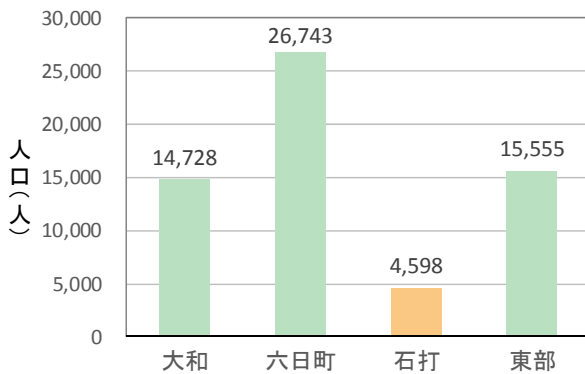
3-1 現状とアンケート結果

(1) 地域概況

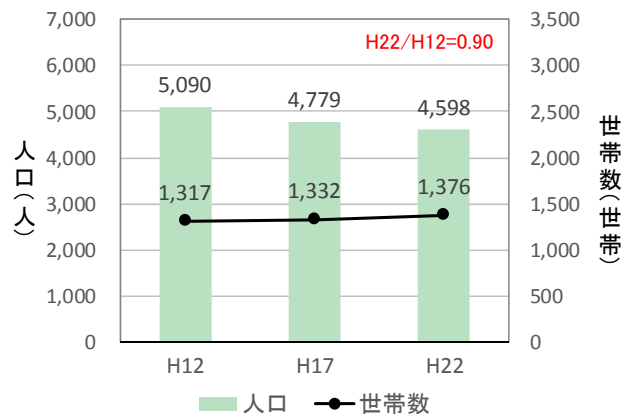
- 市の南東部に位置する旧塩沢町の一部区域。
- 平成22年現在、人口約4,600人、世帯数約1,400世帯で、人口は減少傾向、世帯数は増加傾向。
- JR石打駅と関越道塩沢石打ICが主な交通拠点。
- JR石打駅周辺に用途地域が指定され、都市的土地利用が展開されるほか、地域内には複数のスキー場や大原運動公園が分布し、一大リゾート地として首都圏からも多くの来訪がある。



■人口・世帯数



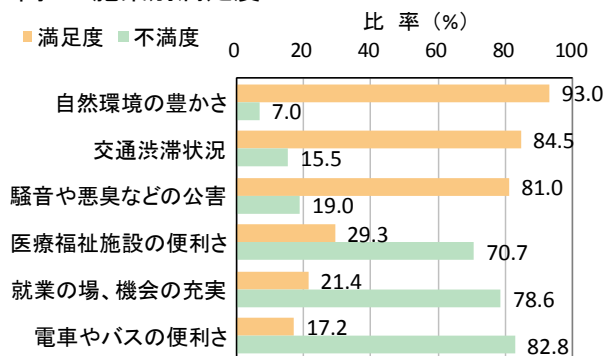
H22 地域別人口



石打地域 人口・世帯数の推移

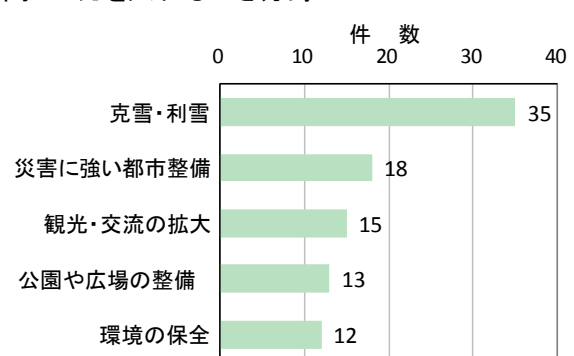
(2) アンケート結果(抜粋)

問10 施策別満足度



※対象は満足、不満足それぞれ3項目のみ

問12 力を入れるべき分野



※上位5項目のみ

3-2 地域の整備方針

(1) 土地利用の方針

【市街地】

- 市街地内の住宅地は、近隣の観光資源利用者のための宿泊機能の増進とともに、便利で快適な居住環境の形成を図ります。
- JR石打駅周辺の商業地は地域住民のための日常サービス機能の充実を目指すとともに、観光拠点との連携を図りながら、上関フラワーロードまちなみモデル事業などにより、来訪者がくつろぎ、楽しめるよう魅力的な商業地の形成を図ります。
- 国道17号沿線の商業施設(店舗、飲食店)や事業所等の集積地は、近隣住宅への環境悪化のおそれのない施設の誘導を図ります。

【集落地・自然地】

- 国道17号沿線の集落地は、都市拠点や地域拠点とのアクセス向上により、住民の日常生活利便性の維持向上を図ります。
- 平野部に広がる田園地は、品質の高い南魚沼産コシヒカリを生産する優良農地であるほか、防災機能、魚沼丘陵や飯士山を背景とした田園景観など様々な機能を有しているため、今後とも維持保全を図ります。
- 地域資源である農地や川、山林などの自然を活用した都市との交流機会の創出拡大を図ります。
- 地域の大部分を占める山林地域は、国土保全、水源涵養、生物多様性などの多面的な機能の保全を図るとともに、特に本地域では5つのスキー場を有する一大リゾート地としても活用を図ります。

【レクリエーション施設等】

- 本地域にある市を代表する大規模なスキー場や大原運動公園、道の駅南魚沼等の観光資源を活用し、スキー場周辺の宿泊施設や温泉地などと連携しながら、通年型の一大レクリエーション地域としての魅力向上を図ります。
- 道の駅南魚沼は、情報発信や物産販売のほか、郷土料理の飲食、美術館、子どもたちの遊び場、診療所なども有する交流拠点として、機能の維持充実を図ります。



石打イルミネーション通り



飯士山



スキー場の賑わい

(2) 交通体系の方針

【交通網の整備】

- 関越道塩沢石打IC周辺は、首都圏からの広域観光の玄関口にふさわしい修景を図るとともに、冬期スキー客が集中して混雑する際の交通円滑化を図るための方策を検討します。
- JR越後湯沢駅から本地域観光施設へのアクセス向上を図るなど、湯沢町との連携強化を図るため、道路の整備を関係機関に働きかけます。
- 塩沢石打ICから各観光施設へのアクセス向上を図ります。また、地域内幹線道路の整備により、観光客のアクセスの向上とともに、統一した案内標識の設置などにより、快適な交通環境の整備を図ります。
- 市街地内の上関フラワーロードの整備に併せて歩道の設置を検討し、地域住民や観光客など、歩行者の安全性確保を図ります。その他多くの人が集まる観光地や公共施設周辺においても、歩道のネットワーク化を図ります。
- その他の身近な生活道路は、歩行者や交通量の多い道路、また学校周辺や危険な箇所などを優先して歩道の整備、交通安全施設の設置を図ります。



塩沢石打IC

【公共交通の整備】

- 都市拠点・地域拠点と集落地を結ぶ市民バスは、高齢者等の日常生活を支える交通手段として、その運行の維持を図ります。また、鉄道や路線バスとの乗りかえ機能の充実などにより利用者の利便性の向上を目指します。
- JR石打駅周辺は、住民の生活を支える身近な交通拠点として、休憩、駐車機能等の充実や来訪者のための案内機能の整備を図ります。



上関フラワーロード

(3) その他の方針

【都市施設】

- 大原運動公園は、地域住民の日常的利用のほか、各種公式戦や大会、学生の合宿など、地域外からも多くの利用者が訪れる広域観光拠点のひとつとして、今後とも機能の拡充、利便性の向上を図ります。

【環境・景観】

- 魚野川の両岸に広がる田園集落と農地は、保水・景観など様々な機能を担っているため、この自然環境を維持保全するとともに、水と緑を活用した生活環境づくりを目指します。
- 地域の大部分を占める山林地域は、国土保全、水源涵養、生態系の保護などの多面的な機能も有することから、重要な環境資源として保全するとともに、交流資源としても活用を図ります。



夏の魚野川

- 市街地や集落地付近を流れる魚野川などの河川は、地域の自然景観を形成する水辺空間として保全します。
- 魚沼丘陵や飯士山の景観は、地域を代表する自然景観であるとともに、これら山林地域に分布する複数のスキー場の景観は、地域を特徴づける独自の地域景観であることから、これら景観資源の保全活用を図ります。
- 地域に根付いた文化、風習の維持継続と活力あるまちづくりへの活用を図ります。



関興寺

【防災】

- 土砂災害のおそれのある石打市街地西側や魚野川右岸の山間地周辺は、砂防施設の整備を関係機関に働きかけるとともに、新たな開発や宅地化については、安全性の確保を図ります。

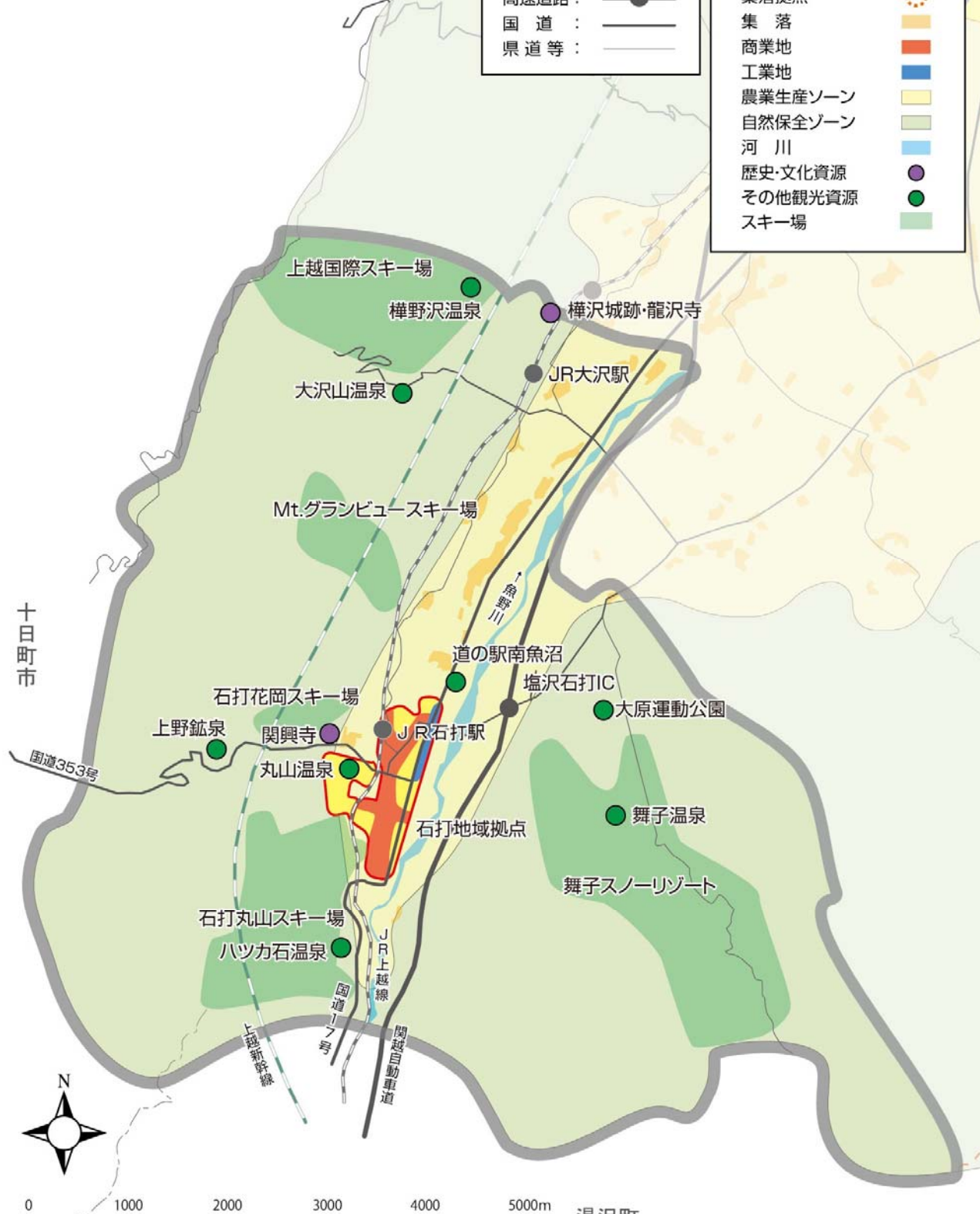
地域別構想図（石打地域）

交通網

- 新幹線：
- J R 等：
- 高速道路：
- 国道：
- 県道等：

凡例

- 市街地
- 市街地内住宅地
- 集落拠点
- 集 落
- 商業地
- 工業地
- 農業生産ゾーン
- 自然保全ゾーン
- 河 川
- 歴史・文化資源
- その他観光資源
- スキー場



十日町市



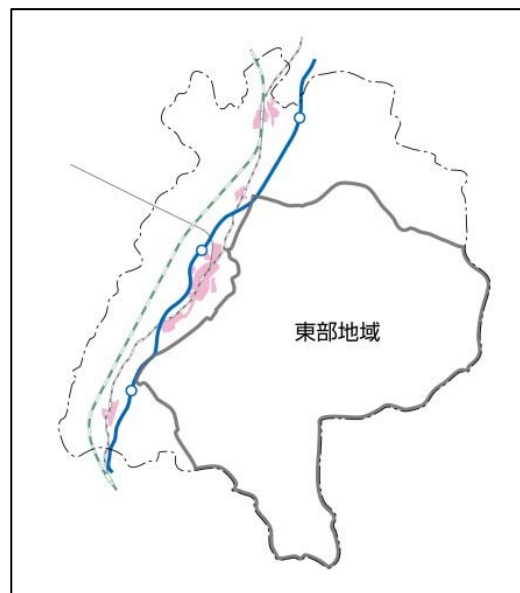
0 1000 2000 3000 4000 5000m 湯沢町

4. 東部地域 <農業・自然環境ゾーン>

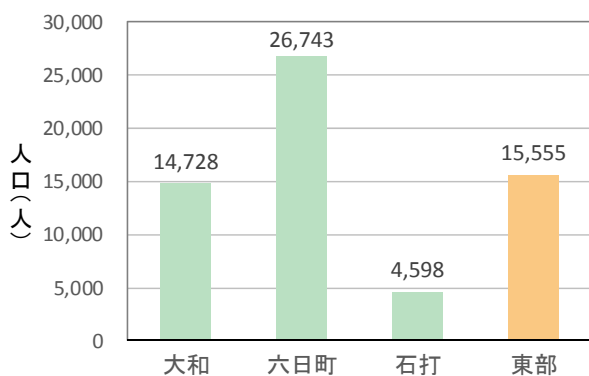
4-1 現状とアンケート結果

(1) 地域概況

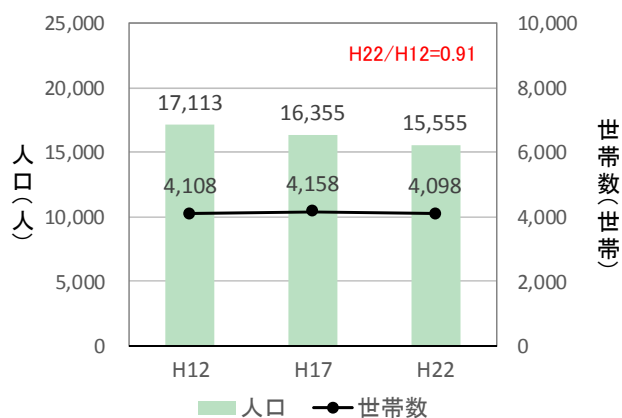
- 市の東部に位置する旧六日町・塩沢町の一部区域。
- 平成22年現在、人口約15,600人、世帯数約4,100世帯で、人口、世帯数ともに減少傾向。
- 用途地域の指定は無く、平野部では農地と集落地が分布する。
- 八海山、巻機山をはじめとする広大な自然環境・景観を有するほか、スキー場、温泉、キャンプ場などの観光レジャー施設も分布する。



■人口・世帯数



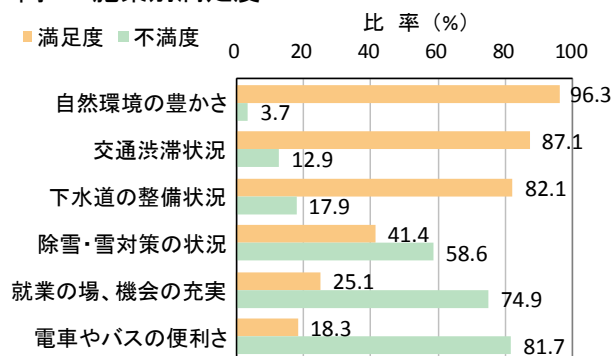
H22 地域別人口



東部地域 人口・世帯数の推移

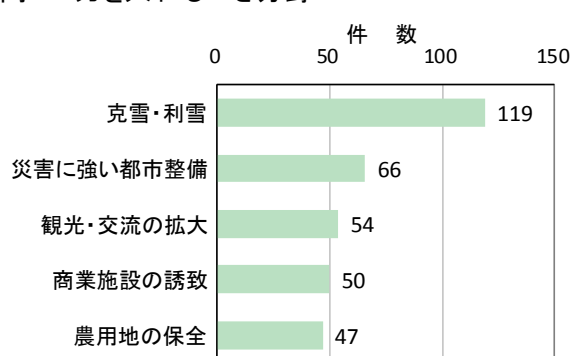
(2) アンケート結果(抜粋)

問10 施策別満足度



※対象は満足、不満足それぞれ3項目のみ

問12 力を入れるべき分野



※上位5項目のみ

4-2 地域の整備方針

(1) 土地利用の方針

【集落地・自然地】

- 城内地区、五十沢地区、上田地区、中之島地区の中心部は、周辺地域の集落拠点として日用品の買物、保育園・小学校、医療施設、郵便局など、住民の日常生活サービスの機能維持を図ります。
- 新堀新田・田崎工業団地、二日町工業団地、津久野工業団地、大福寺工業団地などの工業用地は、自然環境と調和した工業団地として、地域住民の就業の場の確保となるよう維持充実を図ります。
- 本地域の西部に広がる農地は、三国川及び登川などの扇状地に広がり、南魚沼産コシヒカリを市内でも最も多く生産する優良農地です。また、食料生産のほか防災、景観など様々な機能を担っている農地の維持保全を図ります。
- 地域資源である農地、川、山林や農村集落などの自然を活用した都市との交流機会の創出拡大を図ります。
- 地域東部の山林地域は、越後三山や巻機山などの地域を代表する風光明媚な景観資源であるとともに、国土保全、水源涵養、生物多様性などの多面的な機能も有することから、重要な環境資源として保全するとともに、交流資源としても活用を図ります。



東部地域の集落



農業体験の様子

【レクリエーション施設等】

- 地域内の観光地や観光施設などを地域の観光拠点に位置付け、それぞれの施設の機能充実や連携強化により、交流の拡大を図ります。

(2) 交通体系の方針

【交通網の整備】

- 各集落を結び、地域住民が日常的に利用する道路として、主要地方道塩沢大和線の歩道の整備など、安全性向上のための整備を関係機関に働きかけます。
- その他の身近な生活道路は、歩行者や交通量の多い道路、また学校周辺や危険な箇所などを優先して歩道の整備、交通安全施設の設置を図ります。



東部地域集落内の歩道

【公共交通の整備】

- 集落拠点と集落地を結ぶ市民バスや路線バスは、高齢者等の日常生活を支える交通手段として、その運行の維持を図ります。

(3) その他の方針

【環境・景観】

- 三国川や登川沿岸の田園集落と農地は、食料生産のほか、防災・景観形成などの様々な機能を担っているため、自然環境を維持保全するとともに、水と緑を活用した生活環境づくりを目指します。
- 地域の大部分を占める山林地域は、国土保全、水源涵養、生態系の保護などの多面的な機能も有することから、重要な環境資源として保全するとともに、交流資源としても活用を図ります。
- 越後三山や巻機山の景観は、地域を代表する自然景観であることから、これら景観資源の保全活用を図ります。
- 集落地付近を流れる魚野川や三国川、登川などの河川は、地域の自然景観を形成する水辺空間として保全します。
- 地域に根付いている祭行事や文化、風習の維持継続を図るとともに、これらを活用した、活力あるまちづくりを図ります。



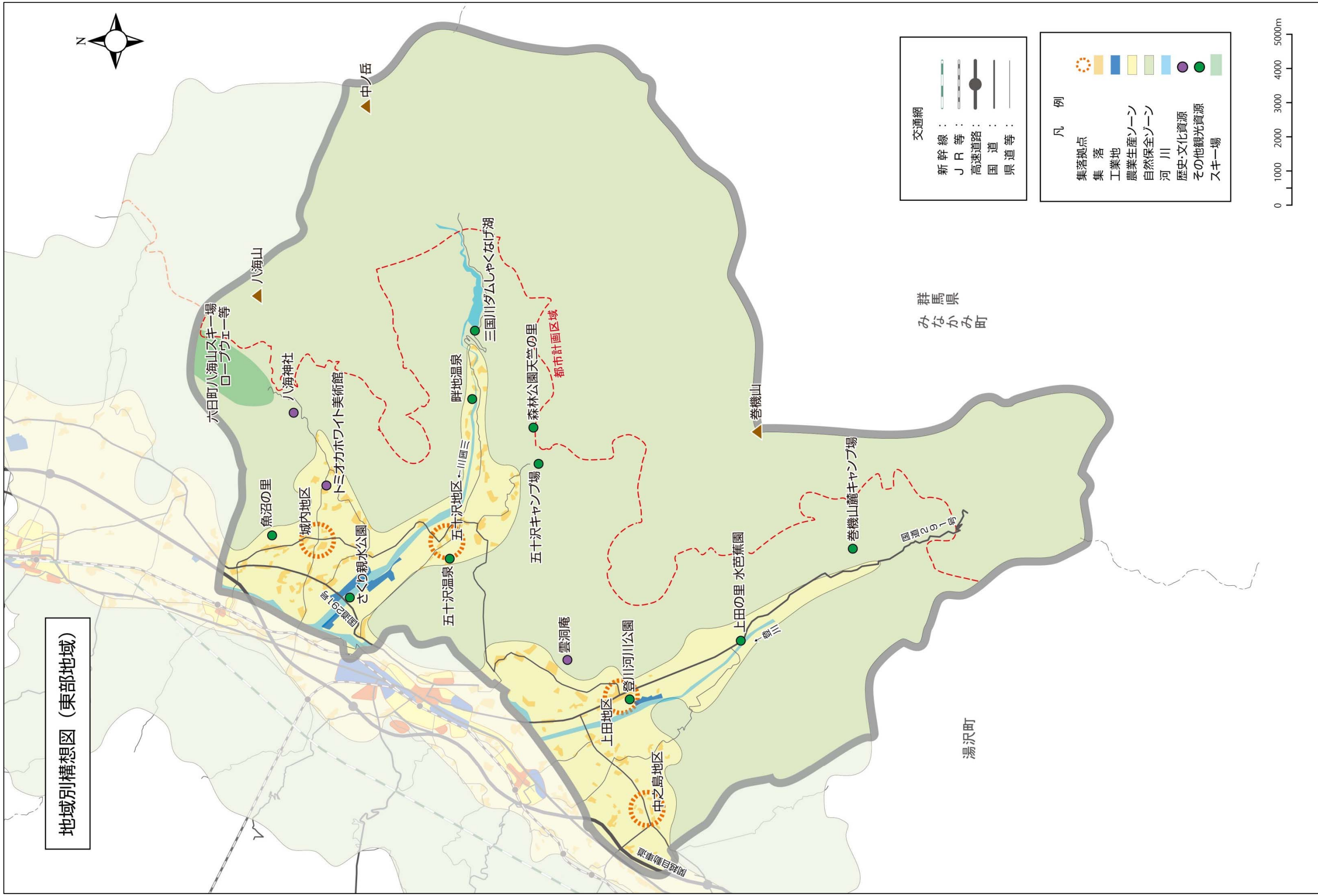
巻機山



夏の登川

【防災】

- 土砂災害のおそれのある山間地付近の集落においては、砂防施設の整備を関係機関に働きかけるとともに、新たな開発や宅地化については、安全性の確保を図ります。
- 山間地の集落においては、災害発生時の道路の寸断により孤立集落とならないよう、幹線道路や橋梁の耐震性向上などの安全対策を関係機関に働きかけます。



地域別構想図 (東部地域)